

平成 28 年度 光化学オキシダント調査検討内容について

1. 経緯

「光化学オキシダント調査検討会（以下「検討会」という。）」においては、平成 25 年度に光化学オキシダントの環境改善効果を適切に示すための指標（日最高 8 時間平均値の年間 99 パーセンタイル値の 3 年平均値）を取りまとめるとともに、光化学オキシダント濃度の長期トレンドに影響を及ぼす主な要因は、越境大気汚染の増加、前駆物質排出量の減少、NO タイトレーション効果の低下であることが示された。

平成 26 年度以降は、これら 3 つの要因について、シミュレーション解析によってオキシダント濃度への影響を明らかにするとともに、今後のオキシダント対策に資する知見を得ることを目的とし、これまでの光化学オキシダント排出抑制対策の効果の把握、前駆物質排出量削減の感度解析等の調査検討を実施している。

2. 調査検討内容

検討会における今年度の主な調査検討内容は以下の項目とする。

① シミュレーションモデルによる解析・検討

- ・ オキシダントの前駆物質（VOC 及び NO_x）の削減効果の検討
- ・ NO タイトレーション効果の低下の影響

② モデルの精度向上のための解析

- ・ 本調査で用いたモデルと他モデルの既存の計算結果の比較
- ・ モデル不確実性の検討
- ・ 九州地域の再現性の再評価(対象領域の拡大)
- ・ モデルの設定変更による感度解析
- ・ 10km 格子による長期トレンドの確認

また、今年度は、平成 26～平成 28 年度までの本調査の成果を整理し「光化学オキシダント調査検討会 報告書」として取りまとめる。

3. 過年度および今年度の調査検討項目について

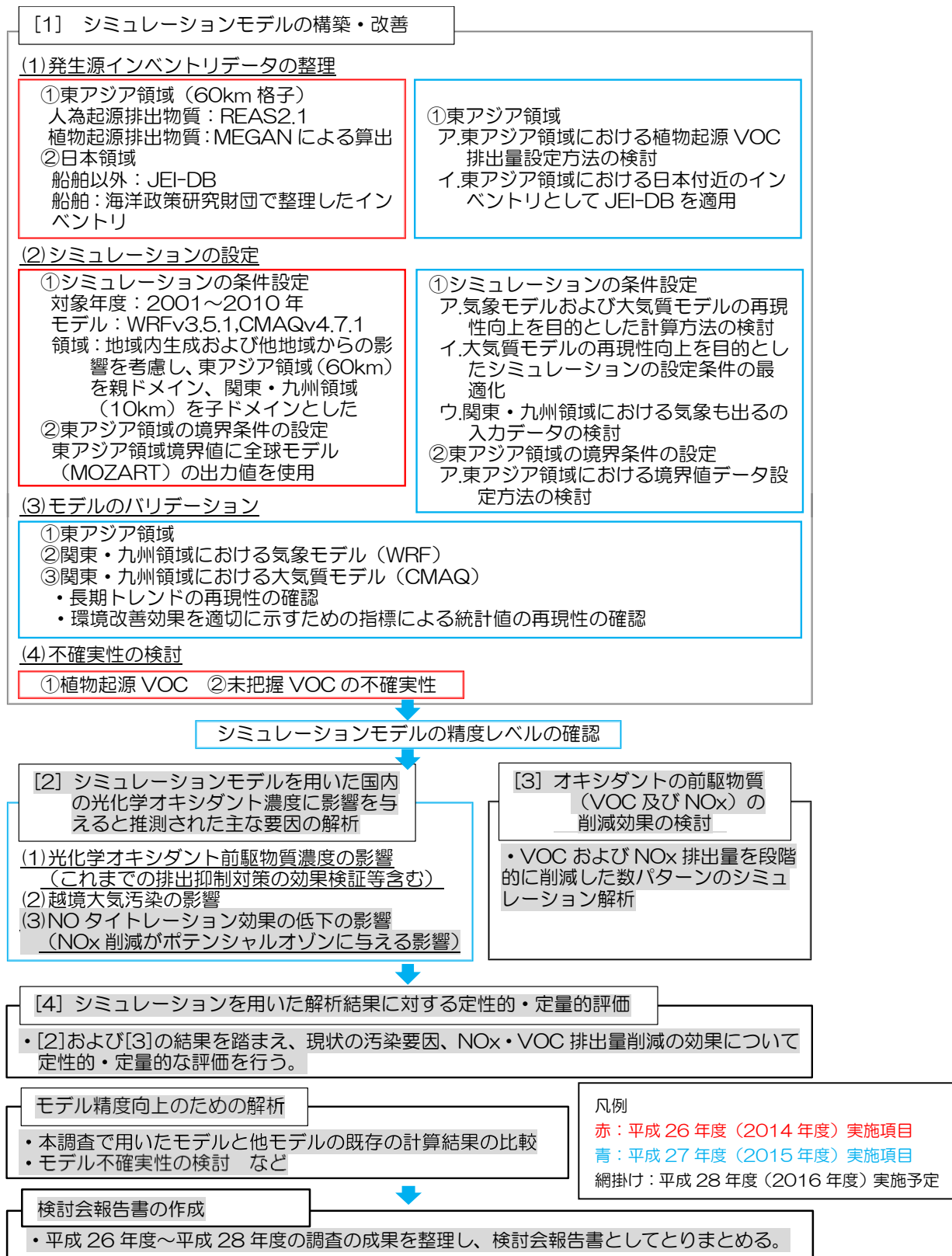


図 3-1 平成 26(2014)年度~平成 28(2016)年度の調査検討フロー